長崎灯台足元灯（長崎県の建築史）

キリシタン弾圧の痕跡を残す島原の町屋

島原支部　田浦　聖宗

1．はじめに

まちの中心部に島原城跡、その西方に武家屋敷の町並など歴史的な遺産が多く残る島原市は城下町から発展したまちです。

島原において歴史的大事件は、1637年（寛永14）に始まる「島原の乱」です。この乱は、キリシタンの徹底的な弾圧と熾烈な処刑や、領主の過酷な年貢の取立てなどによる領民生活の困窮に起因しています。これらのキリシタン弾圧は、キリシタンでないことを誰にもすぐわかるような形で建物自体に表現する知恵を領民にあたえました。現在に残るこれらの痕跡として、家の正面入口に正月だけでなく一年中しめなわを飾っていることや、家の正面上手の道路沿いに仏間を張りだして設ける形式があげられます。表に張りだす仏間形式は、明治６年（1873）のキリスト教解禁を境にしてなくなりました。ただ、仏間ではないがこの位置に張りだしを作る家はその後もしばらくの間続いた一方、しめなわを一年中飾ることは今も続いています。

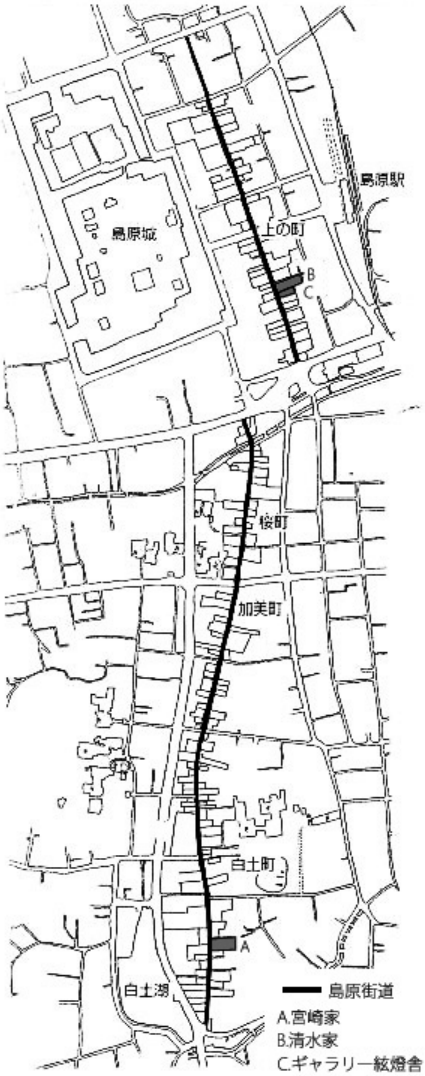

図-1　島原街道における町屋

2．伝統的町家のタイプ分け

島原城の東側を南北に通っている旧島原街道筋を中心とした町なみは、南北の長さは約1.5キロメートルあり、この街道筋とその周辺には、江戸時代末期から明治・大正・昭和初期に建てられた伝統的な町家が多く建っています。そしてその多くが200年前の大噴火の後に建築された住宅です。島原の伝統的町家は、平入と妻入に分けられ、平入はさらにＡ、Ｂの２種に分類できます。また、妻入をＣとして島原の伝統的町家を３タイプに分類できます。

Ａタイプ（正面坪庭付平入町家型）

切妻あるいは入母屋造桟瓦葺き平入で、大壁造漆喰塗り。主屋の下手側半分に深い下屋を出し、この分主屋主体部分が街道面より後退しています。上手側半分の前面には坪庭を設け、これを囲むかたちで、街道に沿って門や塀などが付いています。Ａタイプは規模の大きな町家に多く見られる形式で、小規模な町家でも主屋が平入で上手に坪庭や門・塀をコンパクトに設けるものもあります。

Ｂタイプ（正面全下屋付平入町家型）

切妻あるいは入母屋造桟瓦葺き平入で、大壁造漆喰塗り。主屋前面全てに１間半から半間の下屋を下ろし、坪庭はありません。Ｂタイプは同じく平入で、上手の坪庭や門・塀を持たず、前面全てに一体の下屋が付いています。下屋の深さは半間と浅いものがほとんどで、桁行規模は大きなものから小さなものまでさまざまあります。

Cタイプ（妻入町家型）

切妻あるいは入母屋造桟瓦葺き妻入で、真壁造。Cタイプは、A・Bタイプとは異なり妻入のもので、長崎県下でも島原市内に数棟しかのこっているにすぎません。このタイプに大壁造漆喰い仕上げの建物はなく、すべて真壁です。

3．各タイプ代表例

Aタイプ（宮崎家住宅）

敷地は南北に往来する島原街道の東側に位置します。主屋は街道沿いに西面して建ち、北側を上手とします。主屋主体部分は桁行６間半（12.8m）、梁間３間半（7m）、切妻造桟瓦葺き平入で、厨子二階建です。正面下手半分は１間半の下屋をおろし、正面上手は２畳の部屋を突出させています。この部屋は昭和30年代まで仏間として使用されていました。この仏間と下手下屋の間は坪庭をつくり腰板土塀で囲み、街道に面して門を開き、仏事のときにのみ使います。主屋背面は上手半間、下手１間の下屋を下ろし、外壁は大壁造漆喰塗りで、軒裏は波型に塗込められています。主屋主体部分の間取りは床上部分と通り土間部分に分かれ、床上は表側２室、裏側３室の間取りを基本とし、主体部から張り出して上手表に２畳の部屋、下手表に取り付く下屋は店となっています。主屋上手と下手では、後世の建替えにより建築年代が異なり、下手側が新しく棟札から大正６年とわかっています。上手側は和釘を使用し、仏間を正面に突出するなど古い要素を残すため、江戸末期の建物と考えられています。

写真-1　宮崎家住宅

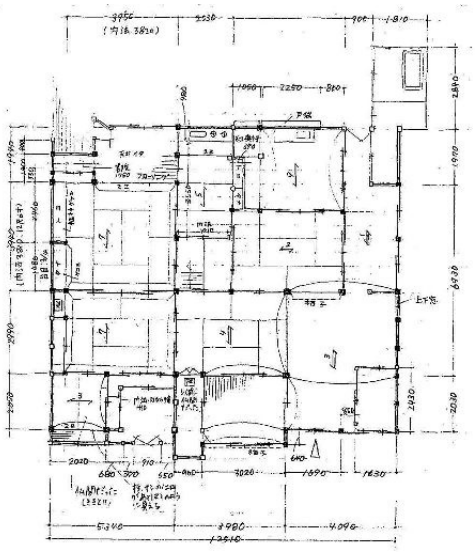

図-2　宮崎家住宅１階平面図

宮崎家主屋は大正６年に上手半部を残し下手半部を建替られました。一階は上手側の古い形式に倣って造っていますが、二階は１列目と２列目の部屋境から小屋組の形式に新旧の違いがみえます。街道に面した屋敷構えは島原町家の独特な古い形式を残しており、特に正面上手に突出した仏間は、キリスト教弾圧という歴史背景のなかで発展した特徴として、建築史的にも宗教史的にも注目すべき観点です。

Bタイプ（清水家住宅）

敷地は南北に往来する島原街道の東側に位置し、北側は小路に面する角地です。主屋は島原街道に西面して建ち、北側を上手とすます。

主屋主体部分は桁行６間半（12.8m）、梁間３間半（6.9m）、切妻造桟瓦葺き平入で、厨子二階建です。正面全面に１間半、背面に半間の下屋を下ろしており、外壁は大壁造漆喰塗りです。主屋主体部分の間取りは、床上部分と通り土間部分に分かれ、

写真-2　清水家住宅

床上は表２室、裏３室を配し、さらに正背面に下屋をおろし居室部が広がっています。建築年代は明らかではありませんが、編年考察から明治後期と考えられます。

当家主屋は正面全面に下屋を下ろす形式で、江戸時代から続く坪庭形式の町家から発展したものとして考えられます。江戸時代からの要素を持ち合わせながら新しい特徴もみられる過渡期の町家として、島原町家の変遷をたどるうえでも重要な遺構です。

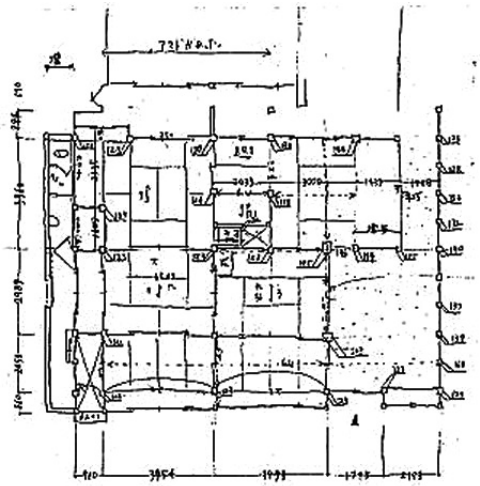

図-3　清水家住宅１階平面図

Ｃタイプ（ギャラリー絃燈舎）

敷地は南北に往来する島原街道に面して東側に位置し、間口約６m、奥行き約25mの鰻の寝床のように細長くなっています。主屋は妻入で街道に西面し、北側を上手とします。

主屋主体部分は、桁行５間半（10.9m）、梁間２間半（4m）、入母屋造桟瓦葺き妻入で、本二階建です。正面と南面に桟瓦葺きで半間の下屋が付き、外壁は真壁造縦板張りです。主体部分の一階の間取りは、入口を入って表に土間部分を設け下手半間が通り土間です。床上部は、３室が１列に並ぶ。主屋裏に中庭をつくり、その奥は離れ座敷が建っていました。階段は上手表に取付け、二階は１室のギャラリーとして活用されていました。

年代は大正８年（1919）建築と伝えられており、絃燈舎は、本来旧福武歯科医院として建てられた建物を改造し一階を和楽器ショップ兼演奏練習所、二階をギャラリーとして再生した建物でした。当初は１階表が待合室、２階は診察室として使われていました。しかしながら、関係者の反対により使用不可になり、残念ながら解体されてしまいました。明治以前の町家は平入で大壁造漆喰塗りですが、当家は妻入で真壁造板張りの町家でした。大正時代の形式を示す代表的な町家でした。

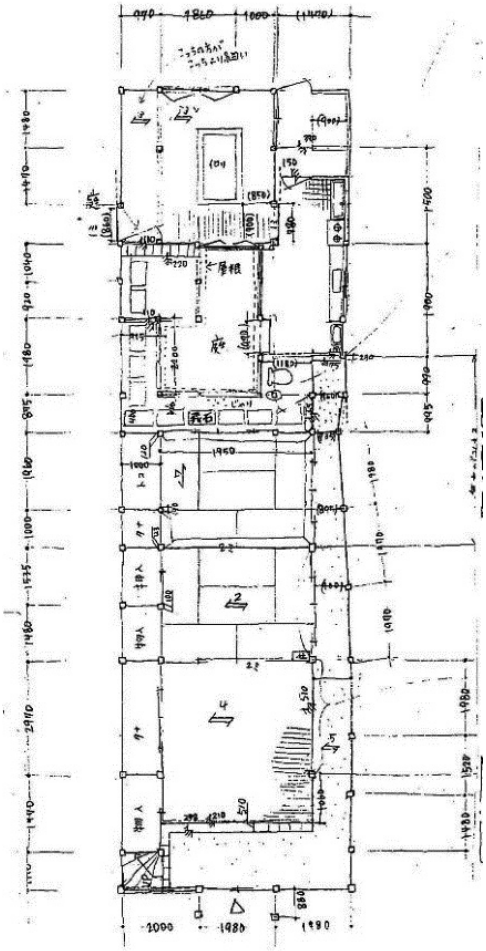

図-4　ギャラリー絃燈舎１階平面図

参考・引用文献（本文中記載以外）

「島原　キリシタン弾圧の痕跡を残す町屋と町なみ」社団法人日本ナショナルトラスト　平成14年３月

長崎県文化財調査報告書第12集「長崎県の民家（後編）長崎県 緊急民家調査報告書」 長崎県教育委員会　昭和49年３月

「長崎県の文化財」長崎県教育庁学芸文化課　https://www.pref.nagasaki.jp/bunkadb/

「島原市中心市街地街づくり検討調査報告書」 長崎県島原市　平成６年３月

「島原市の文化財」 島原市教育委員会　平成13年３月

『キリシタン弾圧の痕跡を残す島原の町屋』コメント

長崎総合科学大学 建築学科 教授　山田 由香里

紹介される建物の平面図は、参考文献にある、日本ナショナルトラストによる調査報告書の掲載図面である。平成12年から行われた島原の町並み調査は、当時長岡造形大学におられた宮澤智士先生と研究室の学生さんたちによって行われた。

宮澤先生は、文化庁文化財保護部建造物課で長く全国の建造物や街並み保存に力を注いできた。長崎の山手の洋館群や旧香港上海銀行、旧英国領事館の今があるのは、宮澤先生のおかげである。

島原は雲仙普賢岳の噴火で、経済や観光面で城下町も大きな影響を受けた。その後、がまだすばいと踏ん張り、湧水を活かした町並みづくりの大きな成果をあげたのは、本当に見事であった。その原動力となったのはこの報告書である。

宮澤先生は文化庁におられ、国内外の報告書に精通していたこともあり、調査報告書は読んで楽しいもの、地元にとって今後のまちづくりの指針になるものを作りたいと明確な目的を持っておられた。掲載図面があえて手描きなのは、わざわざそうしているのである。元の報告書を見ると、現地で描いた学生の図面を手書きで清書し、それを茶色の色付きの図面として掲載している。見ているだけで楽しい報告書である。2010年以降、私も、島原市内の登録文化財候補建物の調査を依頼されるようになった。その対象は、この報告書の最後に登録文化財候補100棟に挙げられた建物から選ばれる。

現地調査で驚くのが、島原の建物はどれも規模が大きいことである。梁間は４間以上を基本とし、架構は交差する登梁を敷梁の上下に交互に架け渡す手法をとる。基本的には、長崎県内で使われる手法なのだが、その架構のダイナミックさは調査するたびに見惚れる。近年で興味深かったのは、番匠棟梁萩原美啓が嘉永元年（1848）に島原街道の北と南で手掛けた旧堀部邸と山﨑本店である。同じ棟梁が街道を行ったり来たりしながら大きな町屋を手掛けたのかと想像すると、町に血が通ってくる。旧堀部邸は、現在島原市によってワーケーションの拠点として整備されつつある。

島原を調査した宮澤先生の学生さんの中には、その後、先輩後輩で結婚された方もいる。お二人は佐賀を拠点に、文化財建造物の仕事に携わっている。20年経っても報告書の内容が地元で活かされているだけでなく、そんな出会いも作った島原の町並み調査である。